

9 月入学留学生とも対面式を

チューター懇談会を開催 国際交流委員会

人文学部の国際交流委員会は、12月2日昼、留学生の日本語能力の向上の支援や困った時の相談などに乗っている学部チューターの学生に呼びかけて、「チューター懇談会」を開催した。

会合には、8人が出席、所用で参加できない3人からは、事前に要望などが寄せられた。

冒頭、国際交流委員会の古賀委員長から、国際交流の拡大を今後の重点事項に掲げている学部にとって海外からの留学生の招致は優先事項で、これを支えるチューター制度はとりわけ重要で、「きめの細かい対応をお願いしたい」との要請があった。

これを受けて、チューターが、留学生との交流の中で感じている疑問点などを披露した。タイからの留学生のチューターとなっている学生からは、「週に1度の頻度で面談し、食事などを行っている。年金手続きについての相談があった時は、2人で調べて加入の必要のないことが分かりほっとした」などの苦労話が披露された。

別の学生からは、「4月入学生とは、チューター全員が一堂に会する対面式がある。だが、9月入学生にはこれがなく、チューター同志が顔見知りになる機会がない。9月もぜひ開催してほしい」との要望が出た。

この関連で、同日の懇談会に参加できない学生から要望書の形で寄せられていた“チューター同志の意見交換の場の設定”について、これ支持する意見が大勢を占め、国際交流委員会が開催する方向となった。

留学生との円滑な連絡がなかなか取れないことから、面談の機会の少ない学生から、「他のチューターが毎週面談していることを知り、とても参考になった。今後は面談の機会を増やしたい」との発言があった。

最後に、前週の留学生懇談会で挙がった、留学生の書いた論文に対する添削の要望について、古賀委員長が、チューターに対し「可能な限りで相談に乗ってほしい」と要請し、チューター側は今後、そうした活動に留意したいと応じた。

(終)

